

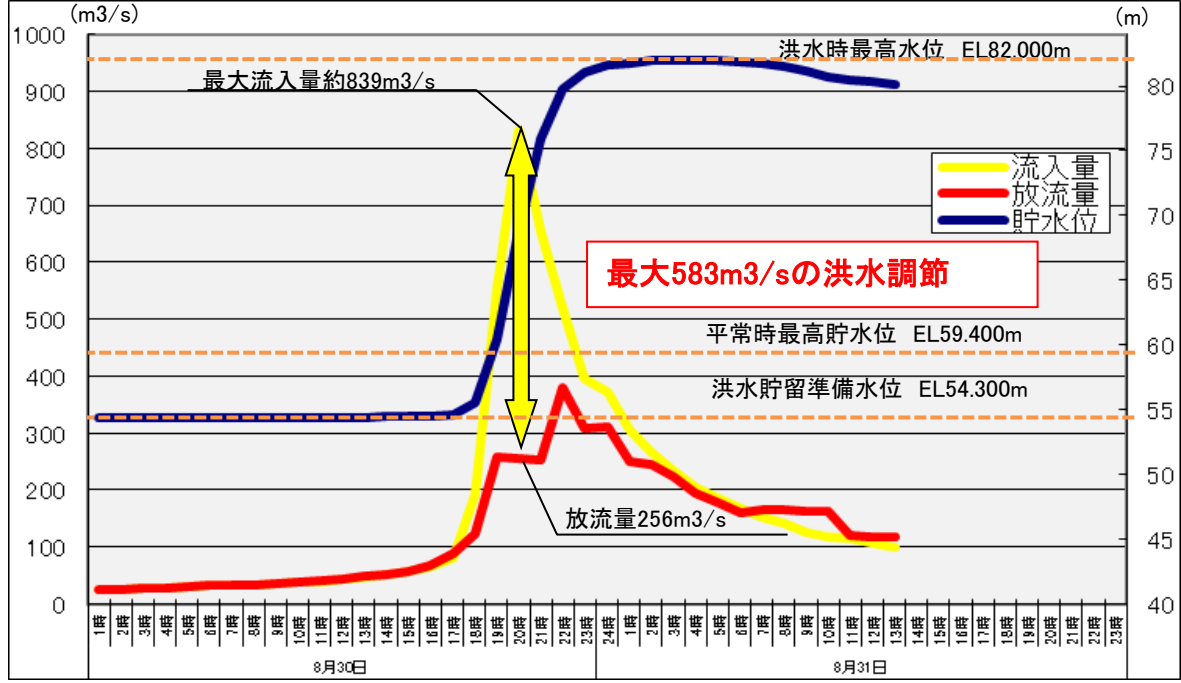
滝ダムの洪水調節効果が 災害からの被害低減の役割を果たしました

台風接近時、久慈川水系長内川の滝ダム(久慈市)上流域において、時間最大雨量39.0mm、降り始めからの総雨量は210.0mmとなりました。

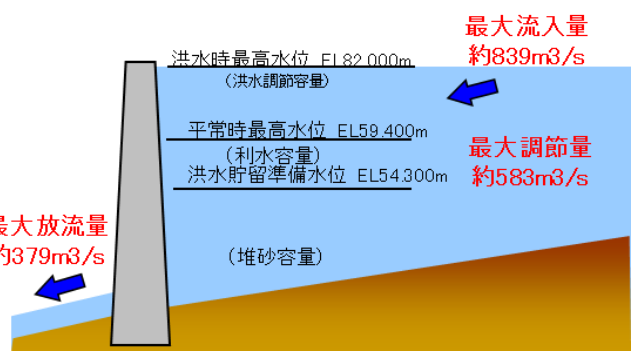
滝ダムでは、上流から流れ込む洪水を貯留し、下流に流れる洪水の調節を図りました。8月30日20時頃には、最大流量毎秒約839m³のうち、約583m³を貯留し、8月31日2時50分頃には、**洪水時最高貯水位(満杯)であるEL82.0mまで水を貯める操作**を行いました。貯留した最大の水量は約6百万m³で、これは東京ドーム約4.8杯分に相当します。

これにより、市内中心部(長内橋水位観測所)では、**2.2mの水位の低減効果**があったものと推定され、あわせて、水防団による水防活動(土のう積み)との連携により、**長内川本線堤防からの越水を防ぎ、下流市街地の洪水被害を低減しました。**

滝ダムの洪水調節の状況(8/30~8/31)



洪水調節状況(断面図)



滝ダム 貯水状況 (8/31 6:10)

